

中期経営計画の目標経営指標を見直し

2021年5月14日に公表した「近鉄グループ中期経営計画2024」について、事業構造の変化を踏まえ、目標経営指標の見直しを行いました。2024年度までの2年間を、アフターコロナの経営改革セカンドステージとし、経営基盤のさらなる強化を図ってまいります。

2021～2022年度

コスト構造改革による
損益分岐点の引き下げ

これまでの主な取組み

運輸

駅運営の合理化・ダイヤ変更等抜本的なコスト構造改革

不動産

SPCを活用した保有資産の流動化による有利子負債削減

国際物流

新たにグループ中核事業へ取り込み

流通

(百貨店) ハルカス本店の強化と地域中核店・郊外店のローコスト運営体制の推進 (駅ナカ) 不採算店舗の撤退と運営の合理化

ホテル・レジャー

(ホテル) 一部ホテル資産売却による二軸化経営へ移行 (旅行) 大規模な組織再編・人員削減の実施

アップデート計画

2023～2024年度

アフターコロナの経営改革
2ndステージへ

近鉄グループの事業構造の変化

アフターコロナのグループ各事業の
回復戦略

鉄道事業の運賃改定

国際物流事業 (KWE) を中核事業に追加

注力する事項

- 事業構造改革の完遂と定着による事業リスク耐性の強化
- コロナ禍で一時的に悪化した財務健全性の回復
- 将来の成長に向けたデジタル化や沿線活性化などの事業基盤の基礎固め

》 目標とする経営指標

| 連結指標 | 2018年度実績 | 2022年度実績 | 2024年度目標 | | 次期計画以降の 目標イメージ |
|------------------------------------|----------|-----------|----------|------------------|-------------------|
| | | | 従来の計画 | アップデート計画 | |
| 営業利益 | 677億円 | 671億円 | 650億円以上 | 860億円以上 | 1,000億円以上 |
| 有利子負債 ^{*1} | 1兆559億円 | 1兆2,793億円 | 1兆円未満 | — | — |
| 純有利子負債 ^{*2} | 1兆231億円 | 1兆953億円 | — | 1兆700億円未満 | 1兆円未満 |
| 有利子負債/ EBITDA ^{*3} 倍率 | 8.8倍 | 10.2倍 | 8倍台 | — | — |
| 純有利子負債/ EBITDA ^{*3} 倍率 | 8.5倍 | 8.7倍 | — | 7.0倍程度 | 6.0倍程度 |
| 自己資本比率 | 19.7% | 18.2% | 23%以上 | 21%以上 | 25%以上 |

近鉄エクスプレス子会社化による現預金の増加に伴い、より実態を反映するためリース債務を加え、現預金を差し引いた「純有利子負債」、「純有利子負債/EBITDA倍率」を新たに目標指標として設定しました。

※1 有利子負債 = 借入金 + 社債

※2 純有利子負債 = 有利子負債 + リース債務 (IFRS第16号による計上分を除く) - 現預金

※3 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 (IFRS第16号による計上分を除く) + のれん償却費

》 参考指標

| 連結指標 | 2018年度実績 | 2022年度実績 | 従来の計画 | アップデート計画 |
|--------------------------------|----------|----------|--------|---------------|
| ROE (自己資本当期純利益率) ^{*1} | 9.6% | 21.6% | 10%程度 | 10%程度 |
| ROA (総資産経常利益率) ^{*2} | 3.5% | 3.5% | 3.5%程度 | 3.2%以上 |

※1 ROE (自己資本当期純利益率) = 親会社株主に帰属する当期純利益 ÷ 自己資本

※2 ROA (総資産経常利益率) = 経常利益 ÷ 総資産